



はこだて Marine Letter

令和4年10月 No.113

入港前の油断を狙う「うねり」！

一般的に入港前には、乗船者に波に対する油断が少なからず生じるようです。というのも、目前に港が見えてくると船長（操船者）は**入港コース**や**他船の動静に注意**を向け、一方、同乗の釣り人は、「やっと入港だ。」との思いから上陸準備にかかり、なかには**ライフジャケットを脱いでしまう**人もいます。

しかし、実はこのような入港前の時期が最も危険なのです。なぜなら、港口や湾口は急に浅く狭くなり、防波堤からの返し波や潮流が複雑に影響して波が高くなる傾向にあります。

つまり、入港前は転覆の危険性が最も高くなるのに乗船者の波に対する注意はおろそかになるのです。

高波の発生しやすい海域の例

① 港口や防波堤付近

② 河口や浅瀬の多い海域



これが「うねり」の仕掛けの一つの「ワナ」です。全国的に、これまでも小型船の入港中の転覆事故が多発し多くの犠牲者が出ています。また、漁船では、陸岸近くに仕掛けた網等を揚げるときが最も危険です。そもそも浅い海域で波が高くなるのに加え、船の片舷に人が集まって網等を揚げるのですから非常にバランスを崩しやすくなるのです。特に夜間の作業は、波の様子が分かりにくいいため、危険性が増します。

入港中の小型船や陸岸近くの海域で作業中の漁船は、波に対し、決して油断することのないように心掛けましょう。！

観天望気（津軽海峡付近の昔からある天気のことわざ）

- ・ 向山近くなれば落日和（恵山地区）
下北半島が近く見えると、南東風となり雨が降りやすい。
- ・ 駒ヶ岳にボダかがればタバノカゼ（木直地区）
駒ヶ岳に曇雲がかかると、必ず北西風が吹く。
- ・ 恵山にボタンかがれば雨（古武井地区）
恵山に曇雲がかかれば、やがて雨となる。

